

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4年 3月 25日

事業所名 すてっぷ小塚

	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	9				
	2 職員の配置数は適切である	9				
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	5	2	2		・非常口のドアが固く、開けるのに時間がかかるので、非常時にすぐ開けられるように修理、改善に取り組んでいく。 ・トイレには手すりがあり、スロープやエレベーター等で配慮されている点もあるが、狭い廊下や段差、引き戸などの改善すべき点があるため、早急な改善に取り組んでいく。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7	1	1		・振り返りを密に行っているが、メモの取り忘れや、職員一人ひとりの認識の違いが見られる事があるので、今より良い振り返りを心がけていく。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	9				
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6	2	1		・HPIに載せてはいるが、保護者への周知にまで繋がっているかと言われると、そうでもないと思われるので、お便りにURLを載せる等して周知の徹底に繋がっていく。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	7	1		・第三者を設置しているが、外部評価を行っていないので、今後は定期的な外部評価を行っていく。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	9			・他事業所へ出向き、研修を受けたり、最近ではリモートでの研修も積極的に受けている。	
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	9			・積極的に保護者と連絡をとり、情報収集、ニーズの確認を行っている	・時々職員と保護者のニーズの違いが見られる事があるので、今後はすり合わせに注意して対応していく。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	9				
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	9			・リーダーを曜日固定せず、いろいろな曜日に当たるように順繰り回している。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7		2	・曜日によって児童のカラーに違いがあり、一人ひとりが楽しかった、次もまた来たいと思えるように工夫して	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	9			長い時間過ごすので、児童一人ひとりにあったおねらいを設定している。	急な活動変更がたまにあるので、予告や対応を計画して取り組んでいきたい。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	9				
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	9				役割を分担し、支援を行っているが、臨機応変にヘルプに入ったり、職員へ必要ならば指示を出し、よりよいチーム支援へ繋がりたい。

16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	8	1		・朝、夕2回の振り返りを毎日行っている。	・パートさんや休みの職員に上手く振り返った内容が伝わってない事があるので、ノートを使って周知徹底に繋げていく。
17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	2			・記録は毎日取るが、内容が簡潔すぎる事があるので、5w1hを意識した記録の取り方を進めていく。
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	9				
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせで支援を行っている	9				

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	9			・各児童に担当職員をつけており、管理者と一緒に参加するようにしている。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	9			・お便り帳や学校からのプリント、HPやLINEを使って情報の確認を行っている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている			9		・看護師の配置が出来ておらず、現在は医ケアの児を受け入れる事が出来ていないので、対応を考えていきたい。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	9				
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	9			・書類を作成し、会議や説明に備えて準備をしている。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	1	6	2		・会議を通して助言を受ける事はあるが、回数としてかなり少なく、事業所として課題に感じる。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	6	2		・事業所同士の交流は昨年からはほとんど出来ていない。外出時の公園などで知らない他児と一緒に遊ぶといった交流はある。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している			9		・まったく参加できていないので、市役所のHP等を参考に今後参加を行っていく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	9			・お便り帳やLINEを使って情報の確認を行っている。	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレントトレーニング等の支援を行っている	6	3		・研修で学んだティーチャーズトレーニングの資料を参考に支援を行って		
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	9				
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	9				
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		4	5		・コロナ流行の影響で保護者会は開催できていない。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	9				
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7	2		・月1回お便りを発行し、日ごろの子供たちの様子を見てもらっている。	
	35	個人情報に十分注意している	9				

36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	9			・児童一人ひとりの特性を考え、聴覚支援の声かけや、視覚支援のホワイトボードを使うといった配	
37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている					

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	7	1	1	定期的にマニュアルを確認し、対応している。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	2	1		・数多く避難訓練を行っているわけではないので、今後は定期的に数をこなして災害に備えられるようにしていきたい。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	9				
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	9				
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	9				
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	9				ささいなヒヤリハットを見過しがちになっていないか反省し、対策していく。